

尾瀬ヶ原 Report & Pictures

50年前の夢をようやく実現

7月27日、28日と1泊2日で妻と尾瀬ヶ原に行ってきました。長野県の高校を卒業して東京に出てきたばかり「♪♪♪夏がくーれば思い出す・・・」の歌が流行っていました。当時、大田区の自動車部品を売る小さな会社で働きながら高田馬場にある大学に通っていて、いつか“水芭蕉の咲く湿原を訪ねたいものだ”と思っているながら半世紀余りが経っていました。



尾瀬ヶ原の湿原を囲む森林

現役中は特派員としてラテン・アメリカの国々を訪問。定年後はスペインに留学した後、「世界文学紀行」を始め作品の舞台が多いにヨーロッパの国々を訪れていました。そして今、お金の算段や体力的なことも考え国内に目を戻すようになり、その第一弾として尾瀬が浮かんできたわけです。

すでに何回も訪れている方も多いと思いますが、せっくなので「尾瀬の今」を写真でご紹介します。

ネットで情報ゲットするも・・・

今は何でもネットで情報が得られる時代。「尾瀬ヶ原」を検索していると「水芭蕉は時期遅れですがニッコウキスゲの群生が迎えてくれますよ」との誘い文句。半世紀前の知識では、尾瀬の旅は新宿発の夜行バスで行く日帰りがほとんどだった。若い頃はそれでもよい。でも夫婦ともに70を超えると体力的にとても持たない。そこで再びネットをチェックしていると「上越新幹線で行く1泊2日の旅」が目に入りました。山小屋も写真付きで

紹介されていたので、立地的にもサービスもよさそうな尾瀬ヶ原の奥にある弥四郎小屋を予約。新幹線、山荘料金を合わせて一人当たり19800円。リーズナブルな値段と思い予約し切符も手に入れました。

ところが・・・

新幹線の下車駅・上毛高原から尾瀬ハイキングコースの入り口「鳩待峠」までの路線バスとマイクロバスの乗車時間が2時間半もかかるのには驚きました。東京駅から上毛高原までの1時間20分のほぼ倍です。しかも路線バス料金は2450円、後半の鳩待峠までのマイクロバスが930円で合計3380円。あとで、新宿駅近くから朝出発する直行バスもあることがわかった。これだと往復7500円でマイクロバス乗り換え地点まで行ける。ネットの調べ方も腕次第、とわかった次第です。

コースの9割が木道！

そんな値段のことよりもせっかく尾瀬まで来たからには楽しくいかなきゃ！鳩待峠の休憩所で軽



標高1591mの地にあり鳩待峠の休憩所

い腹ごしらえをすると私たちは最もポピュラーなハイキングコースを歩き始めました。標高1591mの峠から1400mの尾瀬ヶ原までの森林の中の下り道。最初にゴツゴツの石の坂を下りていくとやがて木道に。2~3枚の厚い板が60~80センチ幅に敷かれています。それが往路用と復路用と2本あり右側通行が原則です。やがて「山の鼻」に着くと、ここからは平坦な湿原がずーっと続いています。

「こんにちは」「こんにちは」と行きかうハイカー



と声を掛け合いながら進む。でも、どこまで行ってもニッコウキスゲの群生は見られません。途中でポツポツと見えたが“群生”には程遠い。聞けば「今年はあまりにも暑かったので花の盛りは7月中旬だった」とのこと。訪れるのが半月遅かったのです。

風呂もありビールも飲める山小屋！？

宿泊の弥四郎小屋は意外にすいていました。200人定員のところ60人くらいの泊り客。週末を外していたからかもしれません。周囲には他に3件ほどの山小屋も。宿泊客の半分余りが登山杖、登山靴に大きなリュック。至仏山や燧ヶ岳などに登る本格的な登山者のよう。こちらは、いわゆるハイキングなので運動靴に軽いリュックのみ。

一泊二日。夕食は5時半。消灯9時。翌日の朝食



宿泊した弥四郎小屋の玄関口

は6時。食事のメニューはいかにも山荘らしい質素なもの。それでも注文すればビールが飲めるのには驚きました。それに男女とも一度に5~6人が入れる風呂もあった。疲れた足の先まで血が通うような熱い湯はとてもしラックスできるものでした。

食事のテーブルで一緒になった宿泊客同士の対話も貴重な情報交換の機会です。まさに翌日その「情報」が役だつ時がきた。

写真左列

- ㊤ 最もポピュラーな尾瀬ハイキングコースの入り口
- ㊦ 入口からしばらくは森林の中の木道が続く
- ㊧ 湿原の中延々と続く木道。咲き残りのニッコウキスゲがところどころに見られる

尾瀬ヶ原の“天敵”は雷

翌朝、4時過ぎに目が覚めたら雨の音。遠くで雷が聞こえてきます。家を出る前のテレビの天気予報によれば、群馬県を含めた関東地方はずーっと一週間先まで晴天でした。やはり山岳地帯は状況が変わってくるのです。

「さあ、どうするか!？」

雨具は二人とも持参してきているものの樹が1本も見えない大湿原のど真ん中を2時間あまり歩くのは危険この上ない。雷が落ちても逃げるところがないのです。そこで昨夜聞いた貴重な情報：

「湿原の淵を歩く木道があります。すぐ近くが森林になっているので、いざという時は逃げ込むことができる。少し遠回りになるけれど安全な道です」

事前に余り調査をしてこなかった私たちにとってはありがたい情報でした。ど真ん中を歩けば2時間のところを30分あまり余計にかかりましたが、雷の恐怖からは逃れることができました。途中で雨も上がった。最後の石の坂を登る頃にはまた降ってきましたが・・・まさに山岳地方特有の天候変化ではありました。



2日間で38000歩とゴミ持ち帰り運動

尾瀬は自然公園法の特別保護地区に、また文化財保護法による特別天然記念物に指定されており、枯れ葉1枚、枯れ草1本でも拾うことが禁じられています。また湿原は非常に弱いので、木道から降りて自然を踏みつけないことが要請されています。それにゴミの持ち帰り運動が徹底されている。

公衆トイレでは維持管理のためにとチップ(1回100円)が求められています。トイレのチップといえばイタリアを訪れた際にどこでも1回1~2ユーロ(130円~260円)のチップを求められたことを思い出すと当然の成り行きでしょう。

こうして1日目の走行歩数18000、2日目が20000で計38000となりました。帰宅後3日ほど足の筋肉痛が残りましたが、珍しくよく歩いた、また変わりやすい夏の山の気候と風景を味わえた尾瀬ハイクとなったのでした。



写真

- ㊦ 遅咲きのニッコウキスゲが出迎えてくれた
- ㊧ 湿原の沼にやさしく清楚に咲くヒツジグサ